

園長	主任	担任

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 夏の健康的な過ごし方を知り、生活に必要な決まり、習慣を身につける。 自分の思いを言葉で知らせ、相手の思いを知り繋がりを深める。 夏ならではの自然事象や動植物に触れ、興味関心に繋げる。 	子ども先月の姿	<ul style="list-style-type: none"> 暑さなどから特に体調を崩す子は見られず、大半の子が元気に過ごすことができた。 シャワーのみとプールがある時の支度の区別が分かり、進んでやっていた。 あそびの様子は小人数のグループに分かれ、好きなあそびをじっくりやっていた。その中で思いの違いによるもの、伝え方言い方に関するいざごは時々見られた。そこに第三者が入り収まることもあるが、いさかいがむしろ膨らむこともあった。 	行事	<ul style="list-style-type: none"> 9(木) 英語で遊ぼう 22(水) 幼児計測 23(木) 英語で遊ぼう、コンサート鑑賞 24(金) 避難訓練 30(木) お話し会
			環 境 構 成		保 育 者 の 援 助 及 び 配 慮
養護○生命・情緒／教育○健康・人間関係・環境・言葉・表現	<ul style="list-style-type: none"> ◆養護 <ul style="list-style-type: none"> 夏の衛生的な生活の仕方を伝え自分から進んで行く。 自分の気持ちを安心して表現する。 ◆教育 <ul style="list-style-type: none"> 身体の異常を保護者に自分で伝える。 プール遊びを楽しみ、開放感を味わう。 友だちとイメージを出し合いながら、遊びを進める。 相手の思いを知り、他児と関わっていく。 夏の自然事象に触れ、関心を持つ。 身近な小動物の観察に触れ生き物の命があることを知る。(カブトムシ、ちょうの幼虫など) 自分の思いを分かりやすく他児に伝えようとする。 リズムに合わせて身体を動かす。 描いたり作ったりすることを楽しむ。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆養護 <ul style="list-style-type: none"> 活動量と休憩の時間のバランスを考慮し、温度や湿度を調整し、快適に過ごせるようにする。お茶も十分に用意する。 安心できるように、ゆったりした環境設定を考慮する。 ◆教育 <ul style="list-style-type: none"> 朝の受け入れ時の保護者とのやりとりを綿密に行い情報共有し、必要に応じて看護師に知らせる。 プール遊び、戸外遊びは日々の気温により、熱中症を避けるため、健康や安全面を重視した上で行う。 遊びのイメージが膨らむように、必要な用具を揃える。 自然に関する図鑑を用意する。 クワガタ幼虫、カブトムシ成虫、ちょうちの幼虫の飼育をする。 子ども一人一人が経験したことを保育者や他児に話す時間や場を、設ける。 保育者自身も言葉遣いに気を付ける。 リズム活動に必要な音響や小道具を用意する。 子どもの興味に応じて時間などを考慮する。 お祭りごっこ素材を用意する。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆養護 <ul style="list-style-type: none"> 【衣服が汚れたり汗をかいたら着替える】ということの必要性を分かりやすく伝える。身の回りのことをしようとする姿をほめる。 子ども一人一人の思いを見極め、受けとめ共感する。また必要に応じ個別に関わり、心が十分に満たされるように援助する。 ◆教育 <ul style="list-style-type: none"> 子ども自ら身体の異常や思いを伝えるときは受け止め確認し、様子に応じ適切に対応していく。 プール遊びでは子どもの楽しさに共感しつつ、危険な遊び方があれば知らせ、その理由を分かりやすく伝える。 一人一人の発想ややり取りを見守り、子ども同士のみ活動に任せるか保育者が援助するか、その場の雰囲気や状態を見て対応する。 トラブルが生じたときは一人一人の思いを受け止めつつ、他児の思いにも気付けるように仲立ちし、考えていけるようにする。 園庭で夏ならではの自然を発見する子どもに寄り添ったり、雷や夕立時には子どもと一緒に観察して感動を共有する。 昆虫観察での子どもの気づきに共感し、興味に繋げる。命の話をする中、虫を大切に扱う気持ちを育むようにする。 子どもの自由な思いを保育者は受け止め、必要に応じ言葉を補いながら、子ども同士が言葉で伝え合う楽しさに繋げていく。 もし自分が言われたら、どんな気持ちになるかを尋ね、嫌な言葉は友だちにも言わないように気を付けることを伝えていく。 保育者が率先して楽しむ姿を見せ、あまり関心を示さない子の意欲が引き出されるように配慮する。少しでも自ら取り組むようになった子の姿をほめて、自信とやる気に繋げていく。 保育者と子どものイメージを確認したりアイデアを出し合ったり一緒に活動しながら、みんなでひとつのものを作り上げる楽しさを味わえるようにする。
食育	<ul style="list-style-type: none"> 食育のマナーを知り、意識する。 育てた野菜を調理する。 		<ul style="list-style-type: none"> 食事マナーは視覚教材などで分かりやすく伝える。 調理士と連携を取っていく 		<ul style="list-style-type: none"> 食事マナーを考慮しつつ、必要に応じてマナーを伝えていく。 みんなで食材の感触に触れ、味の変化に触れ、食への興味へとつなげていく。
安全	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練に参加する。 衣服の調節について伝え、自分で行なえるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> 事前の計画書に目を通しておく。 脱いだ衣服の畳み方を表示する。 		<ul style="list-style-type: none"> 避難時に必要な行動キーワード【おかしも】の理由とヘルメットのかぶり方を保育者と一緒に確認していく。 自分の身体を清潔に保つことの大切さを伝える。また、汗を拭くことや着替える事を自分で意識し行えるように促していく。
家庭・地域・小学校との連携		月 の 反 省		自 己 評 価	
	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みを取る家庭も多いので休み中の子どもの様子を詳しく聞くと同時に、登園再開後の園での様子を丁寧に伝えるなど、双方で連絡を取り合う。 幼保小連携研修に参加し、小学校教師との情報交換などを行う。 				